

特徴ある蚕品種の開発

国産シルク産業の振興には、多様な消費ニーズに応えるための繭素材を生産する蚕品種の開発と提供が重要となる。衣服への利用に関しては、和装分野に加えて、欧米への輸出も視野に入れた洋装分野での利用に適する蚕品種や医療やコスメティック分野に利用できる蚕品種の開発・提供にも取り組む。なお、開発にあたっては、消費者の関心が高い物語性やブランド力のある蚕品種の研究開発を推進する。

緑繭2号 —フラボノイド色素を多く含む繭をつくる蚕品種—

抗酸化能などの生理的に有効な作用があるというフラボノイド色素を含む良質な繭をつくる。人工飼料に対する摂食性も良好であることから、全齢人工飼料育による無菌周年養蚕工場での繭生産が可能である。「緑繭2号」を原材料とした商品の開発および販売に用いられ、衣類のほかに化粧品や入浴剤などの素材としてコスメティック分野でも活用されている。



玉小石 —玉繭をつくり特徴ある糸質を持つ蚕品種—

2頭以上のカイコによってつくられる玉繭は、繭生産の中で偶発的にできる大形の繭であるが、現在では玉繭の入手が非常に困難になっている。江戸時代から飼育されてきた在来種「小石丸」を育成素材にして、玉繭をつくりやすい性質を持つ玉繭品種「玉小石」を作出した。その玉繭蚕歩合は、上蔭環境によって30~50%台となる。

「玉小石」の玉繭を使った節のある玉糸を緯糸に、また、単繭を使った生糸を経糸にして織り上げた紬や洋装服地の開発が行われており、その生地には軽さやしなやかさと上質な光沢が認められている。



玉繭と単繭

プラチナボーイ —卵から雄のみが孵化する特別な蚕品種—

卵にガンマ線を照射し、突然変異により得られた平衡致死系統を交雑品種の繭成績になるまで育成した品種。飼育では強健性が強く、繭では繭糸織度偏差が少なく、生糸にムラが少なく、コシやハリが大きいことが特徴。



雄が孵化

おりひめ —卵から雌のみが孵化する特別な蚕品種—

平衡致死を持つ雄系統と、その致死を阻止できる染色体をもつ雌を組み合わせ、育成した品種。雌繭のセリシンのフラボノイド量が雄繭よりも多いため緑色繭とした。5齢経過が早く、繭では繭糸織度偏差が少なく、解舒が良い。



雌が孵化